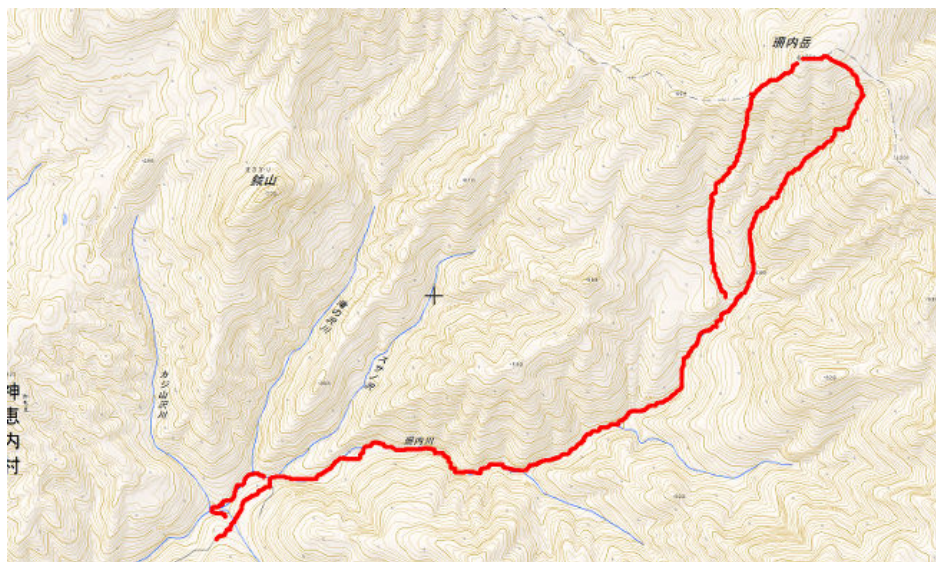


沢例会 珊瑚内岳 (1091.2m) 珊瑚内川遡行

2017 年 7 月 28 日 (前泊) ～30 日

L 渡邊大 M 松倉康、松倉宏、山本

計画では、珊瑚内川を遡行し、山頂泊でスサノ沢を下降する予定であったが、山本が現金入りのポシェットを沢に忘れてきたため、珊瑚内川往復することとなった。



<コースタイム>

【7 月 28 日】	8:20 conta150m 大滝左岸高巻き	【7 月 30 日】
19:30 札幌発	10:00 ゴルジュ	5:00 起床
23:00 積丹山荘着	14:30 源頭	7:00 下山
【7 月 29 日】	16:00 渡邊大山頂着	9:50 本流合流
5:00 起床	17:00 松倉康、松倉宏山頂着	14:30 車デポ地着
7:30 conta130m 車デポ地発	18:30 山本山頂着	

7 月 28 日

夜、札幌を発ち積丹山荘に宿泊。

7 月 29 日

珊瑚内川沿いに林道を行く。第一マッカ沢橋手前標高 130m 地点に車をデポする。途中ゲートがあったが開いていた。

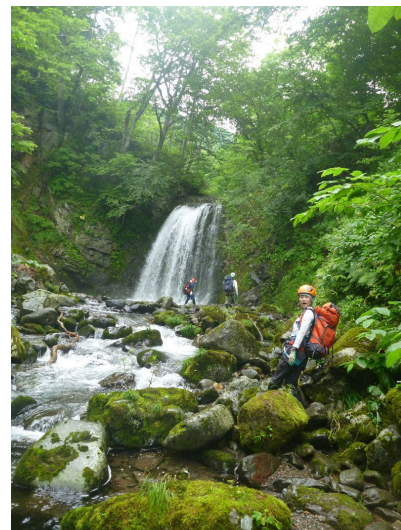
第一マッカ沢橋を渡り、林道が屈曲する地点から入渓する。

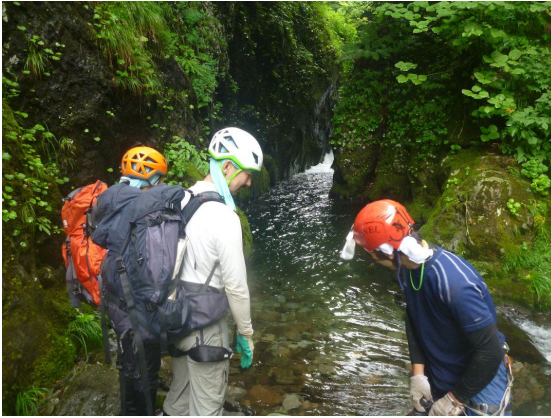
すぐに 10m の大滝が現れる。左岸を高巻くが急傾斜の泥壁で緊張させられる。

沢は、明るくひらけた感じで、釜を持った小滝が次々と現れる。

積丹は今年の台風 10 号の影響がなかったのかとても綺麗な沢だ。

気温も高く、水の中を歩くのが気持ち良い。





標高 240m の二股を過ぎると、珊内川最大の関門のゴルジュが現れる。

松倉康さんが突破を試みるがゴルジュの半分位の地点で先に進まない。結構な水流のようだ。

大三くんが激流の中を両手両足を突っ張って突破！

30m ロープを 2 本連結し、後続はロープに引っ張られて突破する。水温が低く感じ厳しい！

その後も次から次と小滝が現れる。

標高 800m 付近で源頭となり枯れ沢をしばらく行くと強

烈な根曲りの藪漕ぎになる。

根曲りは、太く束になって襲ってくる。

稜線に出て、遥か彼方に山頂が見えるがなかなか前進しない。遠く前方で松倉宏さんが「コノヤロー！」と根曲りと格闘している声が聞こえる。

私といえば、すでに心がポッキリと折れてしまい手足の自由を奪われ根曲りの中に埋没していた。

何とか日が沈む前に山頂にたどり着くことができた。

山頂に 4 人用テントがやっと張れるスペースがある。

山頂からは漁火や天の川が望めた。



7 月 30 日



珊内岳山頂からできるだけ藪漕ぎをしないで珊内川に合流するため、枝沢を目指す。

昨日と同様の根曲りの藪漕ぎをしいられるが大三くんの読図のおかげで比較的直ぐに枝沢に入ることができた。

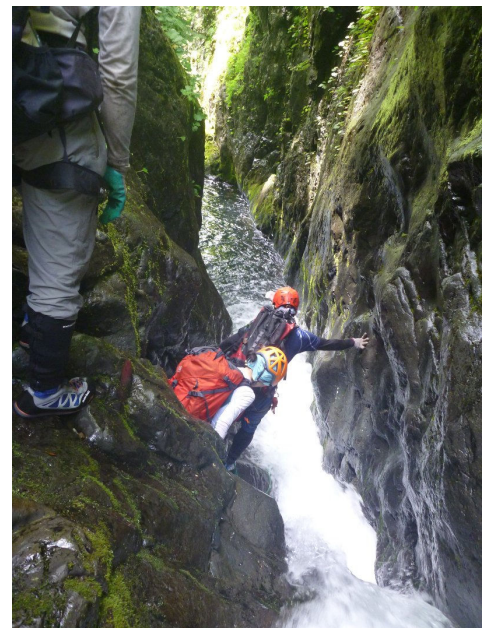
数回の泳ぎをしいられながら下

山する。

10m の大滝は高巻き道を懸垂下降で降りる。

入渓地点を過ぎて、第一マッカ沢橋から林道に出た。

珊内川は、ほどほどに滝やナメがあり、泳がなければ前進できないゴルジュもあり、さらに強烈な藪漕ぎありと沢の醍醐味が凝縮されたような沢だった。



(山本 記)